

四国四県町村長・議長大会の開催

10月2日（水）香川県宇多津町のホテルアネシス瀬戸大橋において、「四国四県町村長・議長大会」が開催されました。

この大会は、四国の町村長・議長が一堂に会し、町村の抱える重要課題について決議するとともに、決議の実現のためお互いに連携を密にしながら行動し、多様で個性豊かな町村自治の振興と住民福祉の向上を期することを目的としています。

大会での決議内容は以下のとおりです。

○決議事項

- ・ 地方財政の充実・強化を図り、地方創生を推進すること
- ・ 医療・福祉政策を充実・強化すること
- ・ 南海トラフ地震対策等、防災・減災対策の充実・強化を図ること
- ・ 四国地方の交通基盤等を整備促進すること
- ・ 農林水産業の振興対策及び地域の活力創造を積極的に推進すること

○参議院選挙における合区の解消に関する特別決議（別紙）

○「四国八十八箇所霊場と遍路道」に関する共同アピール（別紙）

本県関係では、花本副会長が「四国地方の交通基盤等の整備促進について」の説明を行い、坂口会長が閉会のことばを述べました。



坂口会長



花本副会長

参議院選挙における合区の解消に関する特別決議

日本国憲法が昭和22年に施行されて以来、二院制を採る我が国において、参議院は一貫して都道府県単位で代表を選出し、地方の声を国政に届ける役割を果たしてきたが、平成28年7月に憲政史上初めて合区による選挙が実施され、本年7月には2度目の合区による選挙が実施されたところである。

その結果、合区の対象となった4県のうち、3県で投票率は過去最低となった。本年実施の参院選から比例代表に新たに「特定枠」が導入されたが、投票率の低下や直接候補者と接する機会の減少など、合区を起因とした弊害は残ったままである。

このことは、我が国が直面する急激な人口減少問題をはじめ、この国のあり方を考えていく上でも、多様な地方の意見が都道府県ごとに集約された意思として参議院を通じて国政に届けられなくなるばかりか、地方創生にも逆行するものである。

合区に対しては、地方6団体の全団体において合区の早期解消を決議しており、合区問題の抜本的な解決は「地方の総意」でもある。

については、早急に、憲法改正等により「合区の解消」を行い、都道府県単位による代表が国政に参加できる選挙制度とすることを強く求める。

以上、決議する。

令和元年10月2日

四国四県町村長・議長大会

「四国八十八箇所霊場と遍路道」に関する 共同アピール

「四国遍路」は、徳島・高知・愛媛・香川の4県をつなぐ空海ゆかりの八十八箇所霊場をループ状に巡る全長1,400kmの壮大な寺院巡礼である。

この巡礼は、古くから一般庶民に定着し、それを地域社会が「お接待」と呼ばれるおもてなしの心で支えている。

遍路の基となる「思想・信仰」、実践する「場」、さらにそれを支える地域の「お接待」の3者が一体となった「遍路文化」は、空海が四国霊場を開創したとされる西暦815年から、1200年余の長きにわたり脈々と受け継がれてきた。

こうした「遍路文化」に象徴される「四国八十八箇所霊場と遍路道」は、平成27年に文化庁により日本遺産として認定されているが、日本国内のみならず世界的に見ても、普遍的価値のあるもので、人類全体の遺産として次代に引き継いでいくべきものであり、まさに、世界文化遺産にふさわしいものと言える。

四国の産官学民の関係団体は、平成22年3月に「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会を設立し、国から示された課題の解決に向けた取組みを進めてきており、平成28年8月には、文化庁に対して構成資産の保護措置や普遍的価値の証明などを盛り込んだ提案書を再提出しているところである。

我々としても、引き続き国に対して、「四国八十八箇所霊場と遍路道」を長大なエリアに及ぶ生きた文化遺産として、この文化遺産が効果的に保存・承継できるよう、世界遺産候補暫定一覧表へ早期に追加記載することを強く求めるものである。

今後、我々は、関係者との連携を強化し、一層の機運の醸成に積極的に取り組むとともに、すべての人を温かく受け入れてきた「四国遍路」の素晴らしさを幅広く周知するなど、世界遺産登録に向け、四国が一体となって取り組むことを強くアピールする。

令和元年10月2日

四国四県町村長・議長大会